

学校だより

桜水だより

須賀川市立第一小学校

26年度 第 67号

No.129

平成27年 3月12日

☎75-2851

ランニングのまちSUKAGAWA

橋本市長は、新年に新春記者懇談会を行いました。

円谷幸吉選手の偉業を称え「ランニングのまちSUKAGAWA」を推進すべく協議していく。そして「二人の円谷」を中心に地域資源を活用し、市のイメージアップ戦略を展開して魅力を発信していくことなどを語られたようです。

肥満傾向児童の増加は福島県の課題であり桜水だよりNo.125のように本校での課題でもあります。「食育」と「運動の日常化」を課題の1つとして取り上げ、10月18日(日)に開かれる地元の円谷幸吉メモリアルマラソン参加や手軽なランニングなどに親しめたら素晴らしいと考えています。



須賀川を調べ隊

桜水だよりNo.123でお知らせしましたように、6年生の「須賀川を調べ隊壁新聞」が地域交流館ボタンに掲示され多くの皆さんにご覧いただきました。特に、3月7日の「街かど講演会」においてになった会場いっぱいの皆さんにも見ていただきました。

二人の円谷

さて、この講演会では、小説「空の走者たち」の著者で宝塚市在住の作家、増山実さんを講演者としてお迎えし執筆でのエピソードなどをお聞きするものでした。会場いっぱいの参加者でした。

増山実さん執筆のこの小説は、「二人の円谷」である、円谷幸吉さん、円谷英二さんをはじめ、旭ヶ丘公園、須賀川市役所、須賀川アリーナ、十念寺、影沼橋など本校の子どもたちの慣れ親しんでいる場所がふんだんに取り上げられている作品です。

そのほかにも市内各所が場面として描かれ、私自身、幼い時に利用していた北町の「清水湯」とその裏の空き地で遊んだ経験を登場人物と重ね合わせて懐かしく読んでいました。また、震災直後の須賀川市内の様子なども描かれており驚きました。

増山さんは、円谷幸吉さんの生涯に関心を持ち調べていくうちに、「走ることが辛くなった姿」ばかりが描かれていることに疑問を持ち、執筆を決心されたようです。須賀川を繰り返し訪れ、幸吉さんが歩いたであろう道を実際に歩き、思いをはせて書き上げたそうです。

「円谷幸吉さんは、本当は走ることを楽しんでいたのだ」という思いを、一人の少女がオリンピックのマラソンを目指してこの須賀川の地で成長していくという物語で表現しているようにも読み取れる作品です。本校にとっても興味深い小説です。昨年末に発刊されました。